

平成19年度 第1回博物館協議会

日時：平成19年10月10日(水) 14:00～16:30

会場：長浜城歴史博物館研修室

出席者：嶋田委員・木村委員・小和田委員・岡田委員・中島委員・田中委員・
真壁委員
長浜城歴史博物館

中島館長・森岡・太田・北村・坂本・橋本・富岡・山口

内容：資料別添のとおり、内容下記のとおり

1 開会 14:00

- ## 2 挨拶
- ・嶋田会長あいさつ
 - ・中島館長あいさつ
 - ・職員紹介
 - ・本日進行説明
 - ・議長の選出 会長が議長に決定

3 議題

(1) 特別展「歴史の中の鉄炮伝来」について

特別展「歴史の中の鉄炮伝来」展示見学 展示説明 太田

特別展講評は以下のとおり

木村委員：展示はとてもすばらしいものになっている。また、鉄炮が戦で必要だから広まったのではなく、鉄炮は炮術師によって広められたことを知ることができとても勉強になった。

小和田委員：香川・和歌山・長浜と共同で開催するということはとてもいいことだと思います。今後もこのような開催方法は行っていくべきだと思います。また、香川の久米栄左衛門「風炮」は知らなかったのもとても勉強になった。たいへんよくできた展示であった。

中島委員：最近の読み物に、本を読まない若者つまり漫画世代が親になり子供用の解説を作成し興味を持ってもらうと言うのはとてもいいことだと思う。漫画で展示するという事を心に止めて展示して欲しい。

真壁委員：鉄炮をどの戦に使ったか。この展示に使われて鉄炮はどの戦に使われたのか？

小和田委員：鉄炮の威力がどれくらいだったのかということが知りたいのでは？

太田：この展示は1部～3部になっており1部は鉄炮伝来から近世はじめまで。
2部は鉄炮の制作に従事した鉄炮鍛冶職の技術と社会を明らかにする。
3部は幕末維新时期における鉄炮技術の体系的変化、欧米の軍事技術の移

入との関連で明らかにする。その中で2部を重点に展示を行っているので展示になっている。しかし、展示の意見として受け止めたい。

小和田委員：鉄炮1丁いくらと質問されないか？された場合いくらと答えているか？

太田：30万円～50万円の間で今の古美術商とだいたい同じ価格と説明している。

(2) 平成19年度事業について

橋本：博物館事業 平成19年度(上半期)実績報告

坂本：博物館友の会 平成19年度(上半期)実績報告

(3) 平成19年(下半期)事業について

北村：江北図書館開館百年記念所蔵資料展

橋本：彦根藩政と湖北長浜 「井伊直弼と湖東焼の盛衰」

北村：竹生島の名宝展

橋本：平成20年度長浜市長浜城歴史博物館展示予定

平成19年度上半期・下半期の講評は以下のとおり

木村委員：少ない人数でたくさんの事業をこなしているが健康面は大丈夫か心配になります。市民の要求に応えるのもよろしいかと思うが、充電することも必要ではないか？

館長：学芸員も少し増えましたが、館長として健康管理には重々気にして業務を行っております。また、事業を増やすことばかりでなくひとつひとつ丁寧に行って行きたい。しかしながら学芸員が増えたとは言え、地域からの講演会依頼が多くなっていることも事実です。

(4) 今後の博物館活動への意見・提言 その他

館長：去る9月30日に市民とのヒヤリング仕分け事業がありました。いろいろな市民からの意見があった。

～博学連携について～

・文化啓発事業といって学校へ博物館からの押しつけになっていないか。

～友の会に関する事～

・湖北学講座や北近江歴史大学など行っているが、職員が手を加えすぎではないか。友の会をもっと独立させていくべきではないか。

博物館側は、友の会を通じて講演を行うことによって、市からの持出し分がなく、講演を行うことをいいことと思って行ってきたが、ヒヤリングでは、友の会を独立させることによって、職員が手を引くことができ

人件費削減に結びつくという考えになってしまう。文化事業を啓発するにあたり友の会と協力し行っていることが市民協働型である説明をしても伝わりませんでした。

～ 4 館の管理原課になったこと～

・入館者の少ない資料館を博物館職員が盛立てていくことは必要かと思うが、現状は学芸員が少し増えたとは言え負担となっている。

木村委員：寒い感じがしました。文化情勢に対して県や市の行政の文化化がとても遅れている。窓口である県や市がそういう状態だから市民からそういう意見が出るような気がする。公共の博物館の予算要求にしても事業で査定されるのではなく、訳もなく全体の何%削減を行ってくる。価値判断がずれている。市が人減らしを考えているのであれば先行きが暗い。博物館協議会の意見として現状から後退させないようにして欲しい。

小和田委員：仕分け事業と言っているが、行政サイドの代弁者となって発言されているような気がする。ほんとうの博物館事業を理解されていない。博物館の今までの積み重ねがわかってもらえない。

木村委員：友の会にも話してみてもどうか？

館長：ヒヤリング時に博物館のことをわかってもらおうと話すのが、一から話さなくてはならないので、とても時間がかかる。何も知らない人に話さなくてはいけない。今言っていた意見を参考に友の会へも相談していきたい。

(5) 資料の鑑定

～長篠・長久手合戦図屏風～

太田：この屏風は、当館で寄託になっているものなのですが、所蔵者が売却の意向をもっておられます。できれば購入したいと思いますがいかがでしょうか。

木村委員：こんなチャンスはないのだから誰かに買われてしまうより、長浜城で持つべき資料だと思うので是非入手することを勧める。

小和田委員：こんな資料は、なかなかない資料である。この資料は現在長浜城で寄託として預かっているから現存している。これが個人保存することになるとどうなるかわからない。博物館として購入する機会を与えられたのなら購入すべきである。